



新田南小学校だより

令和7年(2025年)10月27日発行



平等と公平・・・

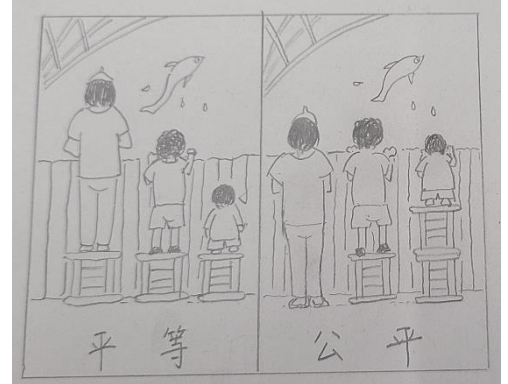
先日の新聞記事から。

絵の左は、同じ高さの台を同じ数ずつ渡してみよう。
背の高さに関係なく平等に同じものを渡すというもの。

一方右は、みんながイルカショーを見られるように人によって貸し出す台が異なること。

学校が目指すものは、右側です。みんながイルカショーを見ることができるようにする。

ただ、子どもたちからすると椅子を2脚渡す行為がずるいとなる場合もよくある話で、丁寧に指導していかなければいけないなと思っています。みんなで楽しむには、この椅子に替わるみんなの協力が必要でしょうか。



10月24日(金)障がい者理解学習会・・・

低・高学年に分かれて実施しました。講師は元豊中市小学校長 岡田賢二先生です。

私が聞かせてもらった高学年学習会の内容は、以下の通りです。

【内容】「誰もが仲良く笑顔のなるために」をテーマに、パラリンピックのアスリートやご自身の体験を通して、想像や思い込みで、その人の個性を決めつけず、相手を思う気持ちの大切さについてお話して頂く。

学習会中、基本子どもたちは話をしっかり聞いておりましたが、特に反応があったのは講師ご自身の話のときでした。

先生は、生まれたときから左腕と右手に障害があり、小学校入学当初にはクラスの子から嫌な言葉を言われたそうです。そのとき、先生のことを受け止めて傍に居てくれた子がいました。心救われる瞬間だったそうです。中学校入学後、クラブでバスケットボール部に入部希望を出したら、顧問からバスケットボール部より他のクラブの方が向いているのではと言われたと。それでもバスケットボール部を押し通し、中学校では大阪府大会で準優勝チームに。高校ではキャプテンを務められるなど、好きなことをやり抜かれたお話でした。このときは、子どもたちからも「おおーっ！」と声が上がりました。腕や手にハンデがあったとしても、見た目だけでその人のことを可哀そうと決めつけるのは間違いだと。自分にとっては、これが普通で、バスケットボールを楽しんでこれたのだからと。受け取る側は、相手を思いやる気持ちを持ちつつ、あるがままに受け止める心を持つことが大切だと思いました。

とても分かりやすいお話で、低学年の部の最後には、子どもたちと握手をしてもらいました。間近で腕を見せてもらったことで、子どもたちなりに今日のお話の内容をしっかり受け止めてくれたのだと感じました。心に残る45分間でした。新田南が色々な人にとって、優しい街であるためにも、引き続き子どもたちと一緒に考えていきたいと思っています。

11月26日(水)・・・校内研究推進事業「ICT活用による子ども主体の学びの実現に向けて」公開研

これまで京都教育大学の久保紀一郎先生をお招きし、指導を受けてきました。「主体的に学ぶ」というキーワードは、全国の小学校が様々な研究を進める中でそれぞれに取り組んできた大きなテーマであります。これに関わり、本校では「自走する子どもたちを育てる授業づくり」というテーマを掲げ、取り組んできました。まだまだ道半ばではありますが、その取り組みについては少しずつお伝えしていきます。当日は6クラスが授業を公開します。(対象は市教職員のみ)